

書 評

“写真のはじまり物語—ダゲレオ・アンブロ・ティンタイプ”

安友志乃著 雷鳥社 2009年2月刊  
A5判 159ページ 本体価格1,800円

美しい本である。写真の歴史、なかでも写真の「文化史」についての本である。新刊紹介をまず、この言葉で始めたい。A5判、190ページのかわいい本であるが、まさに写真を愛でる（めでる）という言葉にふさわしい装丁となっている。カラーページでは黄ばんだ紙の地肌が全てに印刷され、白黒のページでも、灰色に明暗の分布のある地が印刷されている。その上に、美しく写真と文字が配列されている。視覚に訴える書物で、言葉でお伝えできない部分も多いが、以下目次に沿いその一端を紹介する。

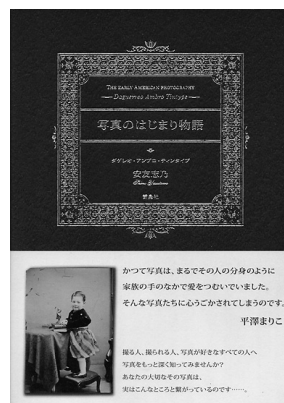
第一章「ダゲレオタイプ」、第二章「アンブロタイプ」：銀板からいろいろな湿板の技術発展を経て乾板にいたるまでを解説。第三章「ティンタイプ」：ブリキ（亜鉛板）を用いたコロディオン法の写真であるティンタイプが米国で好まれた状況を当時の人の手紙を交えて記述している。第四章「CDV (The carte de visite) とキャビネットカード、ステレオカード」：それぞれの美しいカードを図版で紹介。最終章「写真よ、こんにちは」ニエプス、ダゲールを始め、写真の発明者たちの動静を、特許に関する記述を交えて記述している。

私は写真の歴史については一通りの知識を持っていると自負していた。けれどもこの著書を読み、初めて目にする内容が多いことに驚かされた。

これ程ユニークで魅力的な本がどのようにしてできたのか、著者はどんな人物でどんな生活をしているのか。この疑問は、著者のブログを読むと解消する。2007年10月23日から2008年12月27日まで書き続けられたブログ：<http://blog.goo.ne.jp/gulugulunikki/> を本書とあわせて読むと知識がいっそう豊富になる。

著者による「はじめに」の最後の一節を転載し、紹介を終えることとする。「写真史は何も知らないけれどカメラつきの携帯電話で撮って楽しんでいる。あなたが今写しているその写真が、実はこんなところに繋がっているのだと知っていただけたら、私はとても楽しいのです。」

(桑山哲郎)



かつて写真は、まるでその人の分身のように  
家族の手などで愛をつむいでいました。  
そんな写真たちを心うごかされてしまつたのです。  
半澤まりこ

見る人、撮られる人、写真が解きかかすまでへの  
写真家としての苦闘の軌跡が  
あなたの大切な写真に  
実はこんなところと繋がっているのだと知って……

“デジタル一眼レフがわかる (First Book)”

—銀塩からデジタルまで一眼レフの歴史としくみを理解する—

豊田堅二著 (株)技術評論社 2008年8月刊  
A5判 296ページ 本体価格1,780円

デジタル一眼レフがますます注目を集めている。この理由は、最新の技術を盛り込んだ新製品が次々と発売され、販売台数や売り上げが伸びているためだけではない。技術的に新たに可能になった撮影技術や手法、そして日常生活の中での新しい楽しみ方などがいっせいに提供され始めたことの影響も大きいと思われる。デジタル一眼レフには、最新の高度の技術が盛り込まれているだけではなく、新しいデジタル技術、あるいはデバイスの技術に基づく新しい要素と、これまでの銀塩写真の中で育ってきて新たな機能あるいは性能を発揮している部分などが渾然一体となっている。このため、商品を選択したり、使いこなしたり、また技術や使用方法を説明する場合に適切な解説書が強く要望されていた。最新のデジタル一眼レフを過不足なく解説するには、広い知識に加え、難しい技術をやさしく解説する力量が必要とされる。また、コンパクトデジタルカメラを手にし初めて写真を撮り始めたグループと、これまでの銀塩一眼レフカメラを使用した経験の上でデジタル一眼レフを使い始めたグループの、両方を満足させる内容であることが要求される。今回刊行された『デジタル一眼レフがわかる』は、これらの要望に的確に応えた一冊になっている。デジタル一眼レフを手にし、カタログを読む人の疑問と要望に向けた内容と構成になっている。全体は11の章で構成され、以下の順の配列となっている。カメラの基本/ファインダー/シャッターと絞り/撮像素子—CMOSとCCD/画像ファイルと画像処理—デジタルカメラのデータを知る/露出制御—測光、シャッターと絞りのコントロール/フォーカシング—ピント合わせとオートフォーカス/手ブレ補正とゴミ対策—デジタル時代の新技術/撮影レンズ—レンズの基本とレンズマウント/レンズの取差—像を悪化させる正体は？/ストロボ—しくみと調光。章立てがカメラの基本に続き、ファインダー、シャッターと絞りと続く構成には、カメラについてあまり知識のない読者をしっかりとつかまえる配慮が感じられる。

本書の内容は大変正確で、安心して利用することができる。私自身が得意な分野での記述の正確さから推測すると、残りの部分も信頼できる。また感心するのは周辺に当たる領域の記述である。本筋から外れる分野は、説明があまり詳しくないと読者が戸惑い、簡単すぎると良く理解されない。本書ではこのあたりのバランスが大変良く関連する知識を適切に得ながら読み進むことができる。全体を読み通して改めて気がついたことがある。最新のデジタル一眼レフには、ダゲレオタイプ以来カメラにつき込まれた技術開発が連続として受け継がれていることである。最新の知識にとどまらず、カメラの歴史を改めて学び直すのにも良い書物であるので、ぜひ一読をおすすめする。

(桑山哲郎)



First Book  
デジタル一眼レフがわかる  
銀塩からデジタルまで  
一眼レフの歴史としくみを理解する  
豊田堅二著

レンズ、シャッター、絞り、撮像素子、  
銀塩カメラからデジタル一眼レフまで  
カメラのしくみと歴史がよくわかる！

カメラがわかる  
目次  
ペンタプリズム/ファインダー—露光/CCD/CMOS/マイクロレンズ/アイ  
カメラのしくみ/フィルター—露出制御/SPD/Color/RAW/露出補正/Ex  
露出制御—測光/露出制御—測光/露出制御—測光/露出制御—測光/露出制御—測光  
/シャッター—露出制御/露出制御—測光/露出制御—測光/露出制御—測光 etc.

技術評論社